

令和元年10月29日

## 文化庁選定「歴史の道百選」追加選定について

古くから人、物、情報の交流の舞台となってきた道や水路等は、我が国の文化や歴史を理解する上で極めて重要な意味を持っています。これらの歴史的・文化的に重要な由緒を有する古道・交通関係遺跡を「歴史の道」として、その保存と活用を広く国民に呼び掛け、顕彰するために、平成8年に全国各地の最もすぐれた「歴史の道」78か所を「歴史の道百選」として選定しました。

この度、平成8年の「歴史の道百選」に追加選定を行いました。選定されたのは新規選定36件、既選定への追加選定19件です。この結果、「歴史の道百選」は114件となります。今回選定された歴史の道の詳細については、別紙のとおりです。

<担当> 文化庁文化財第二課

課長 岡本

課長補佐 田井

史跡部門 山下、浅野、野木、坂井田

電話：03-5253-4111（代表）（内線3029）

文化庁選定「歴史の道百選」追加選定一覧

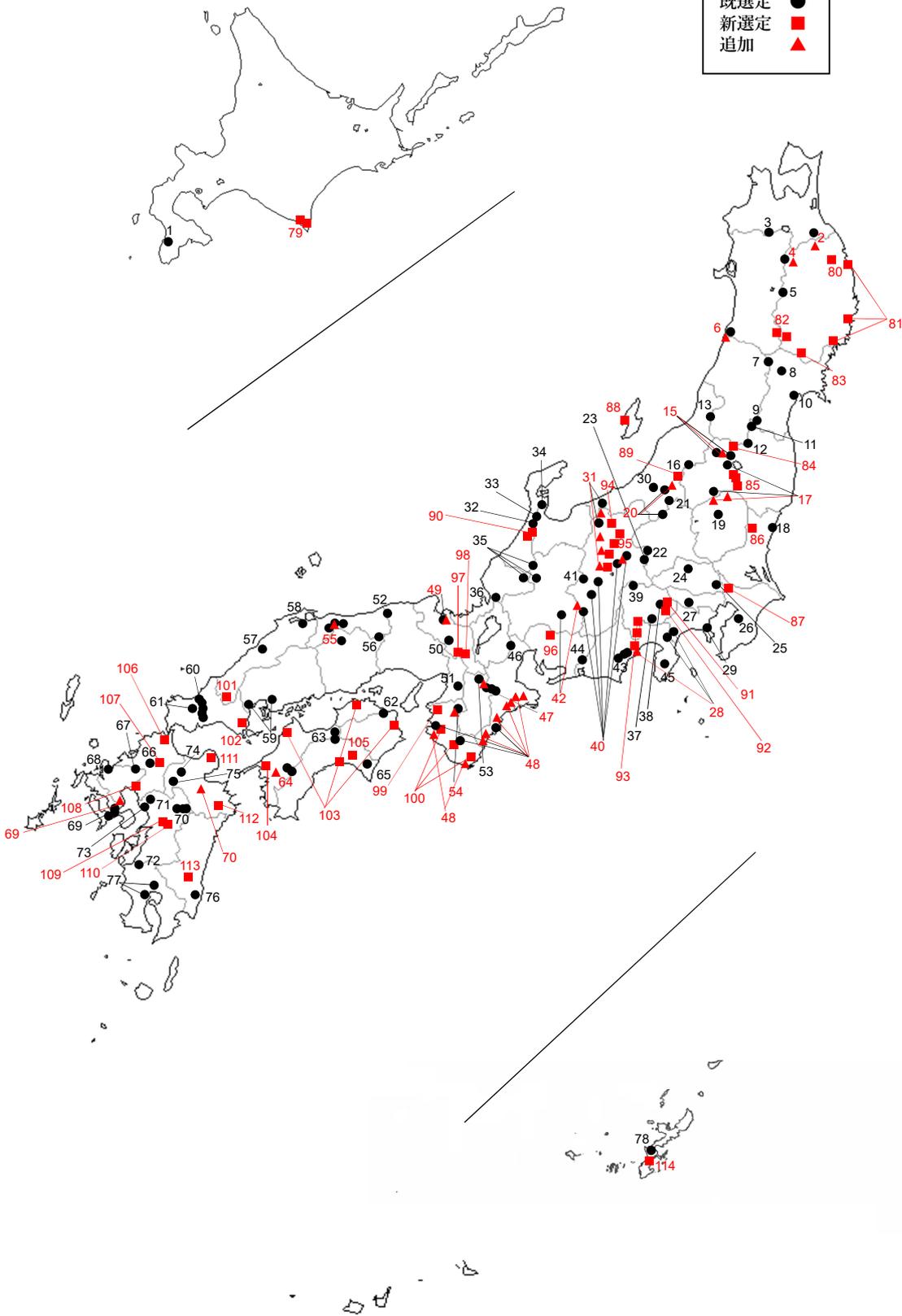
都道府県名		既選定 (※市町村名は平成8年当時)	新選定
		■：1 都道府県に収まるもの ■：2以上の都道府県にまたがるもの	■：1 都道府県に収まるもの ■：2以上の都道府県にまたがるもの (追)：既選定に追加するもの(下線部：追加箇所) ■：追加により2以上の都道府県にまたがるようになるもの(下線部：追加箇所)
1	北海道	1. 福山街道(上ノ国町)	79. 様似山道・猿留山道(様似町・えりも町)
2	青森県	2. 奥州街道一蓑ヶ坂・長坂・高山越(三戸町・南部町・五戸町) 3. 羽州街道一矢立峠越(碓ヶ関村)	
3	岩手県	4. 鹿角・南部街道一梨ノ木峠越(安代町) 5. 生保内・雫石街道一国見峠越(雫石町)	80. 久慈・野田街道(野田村・葛巻町・久慈市) 81. 浜街道(田野畑村・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市) 82. 仙北街道(奥州市) 83. 陸奥上街道(一関市) (追)2. 奥州街道一蓑ヶ坂・長坂・高山越・浪打峠・ヨノ坂越(一戸町・岩手町) (追)4. 鹿角・南部街道一梨ノ木峠越・車之走り峠越(八幡平市)
4	宮城県	7. 出羽・仙台街道一中山峠・山刀伐峠越(鳴子町) 8. 陸奥上街道(岩出山町) 9. 羽州街道一金山峠越(七ヶ宿町) 10. 貞山堀運河(宮城県仙台湾沿いの岩沼市～石巻市)	
5	秋田県	3. 羽州街道一矢立峠越(大館市) 4. 鹿角・南部街道一梨ノ木峠越(鹿角市) 5. 生保内・雫石街道一国見峠越(田沢湖町) 6. 北国街道一三崎山越(象潟町)	82. 仙北街道(東成瀬村)
6	山形県	7. 出羽・仙台街道一中山峠・山刀伐峠越(最上町・尾花沢市) 9. 羽州街道一金山峠越(上山市) 11. 米沢・福島街道一板谷峠越(米沢市) 12. 万世大路一栗子峠越(米沢市) 13. 越後・米沢街道一黒沢峠・大里峠・鷹ノ巣峠越(小国町) 14. 出羽三山登拝道(羽黒町・朝日村)	(追)6. 北国街道一三崎山越(遊佐町)
7	福島県	11. 米沢・福島街道一板谷峠越(福島市) 12. 万世大路一栗子峠越(福島市) 15. 佐渡路一会津街道・束松峠・滝沢峠越(会津坂下町・会津若松市) 16. 八十里越(只見町) 17. 下野街道(田島町・下郷町・会津本郷町)	84. 会津・米沢街道一桧原峠越(北塩原村) 85. 白河・会津街道(会津若松市・郡山市・須賀川市・天栄村・白河市) (追)15. 佐渡路一会津街道・島井峠・重峠・束松峠・滝沢峠越(西会津町)
8	茨城県	18. 陸前浜街道一十王坂越(十王町)	86. 南郷道(常陸大宮市)
9	栃木県	19. 日光杉並木街道(今市市・日光市)	(追)17. 下野街道(会津中街道・会津西街道)(那須塩原市・日光市)
10	群馬県	20. 佐渡路一三国街道(新治村) 21. 清水越街道(水上町) 22. 中山道一碓氷峠越(松井田町) 23. 下仁田街道(下仁田町・南牧村)	
11	埼玉県	24. 鎌倉街道一上道(小川町・寄居町・毛呂山町) 25. 見沼通船堀(浦和市)	
12	千葉県	26. 鎌倉街道一上総路(袖ヶ浦市・市原市)	87. 利根運河(野田市・流山市・柏市)
13	東京都	27. 浜街道一鑓水峠越(八王子市)	
14	神奈川県	28. 東海道一箱根旧街道・湯坂道・西坂(箱根町) 29. 鎌倉街道一七口切通(鎌倉市・横浜市・逗子市)	
15	新潟県	13. 越後・米沢街道一黒沢峠・大里峠・鷹ノ巣峠越(関川村) 16. 八十里越(下田村) 20. 佐渡路一三国街道(湯沢町・大和町・川口町) 21. 清水越街道(塩沢町) 30. 松之山街道(安塚町・松代町・十日町市) 31. 松本・千国街道(糸魚川市)	88. 西五十里道・鶴子道(佐渡市) 89. 会津街道一六十里越(魚沼市) (追)20. 佐渡路一三国街道(魚沼市)

16	富山県	32. 北陸道一倶利伽羅峠越(小矢部市) 33. 臼ヶ峰往来(氷見市) 34. 石動山道(氷見市)	90. 田近越・小原越・二俣越(朴坂越・三ノ坂越)(小矢部市・南砺市)
17	石川県	32. 北陸道一倶利伽羅峠越(津幡町) 33. 臼ヶ峰往来(志雄町) 34. 石動山道(鹿島町) 35. 白山禅定道(尾口村)	90. 田近越・小原越・二俣越(朴坂越・三ノ坂越)(津幡町・金沢市)
18	福井県	35. 白山禅定道(勝山市) 36. 北陸道一木ノ芽峠越・湯尾峠越(敦賀市・今庄町)	
19	山梨県	37. 富士吉田口登山道(富士吉田市) 38. 鎌倉街道一御坂路(御坂町・河口湖町) 39. 棒道(小淵沢町・長坂町・大泉村)	91. 青梅街道(甲州市) 92. 甲州街道一笹子峠越(大月市・甲州市) 93. みのぶ道(身延町・早川町・南部町)
20	長野県	22. 中山道一碓氷峠越(軽井沢町) 31. 松本・千国街道(白馬村・小谷村) 40. 中山道一信濃路(立科町・和田村・楢川村・木祖村・南木曾町・山口村) 41. 野麦道(奈川村)	94. 戸隠道(長野市) 95. 北国脇往還(善光寺道)(長野市・千曲市・麻績村・筑北村・松本市・塩尻市) (追)31. 松本・千国街道及び東回り古道(小谷村・白馬村・大町市・松本市) (追)40. 中山道一信濃路(長和町)
21	岐阜県	35. 白山禅定道(白鳥町) 42. 中山道一東美濃路(中津川市・恵那市・瑞浪市・御嵩町)	(追)42. 中山道一東美濃路(中津川市)
22	静岡県	28. 東海道一箱根旧街道・湯坂道・西坂(函南町・三島市) 43. 東海道一小夜の中山道・金谷坂・大井川川越遺跡(掛川市・金谷町・島田市) 44. 本坂通(細江町) 45. 下田街道一天城越(河津町)	93. みのぶ道(富士市・静岡市) (追)28. 東海道一箱根旧街道・湯坂道・西坂・宇津ノ谷峠越(静岡市・藤枝市)
23	愛知県	44. 本坂通(豊橋市・豊川市)	96. 信州飯田街道(瀬戸市)
24	三重県	46. 東海道一鈴鹿峠越(関町) 47. 伊勢本街道一飼坂峠越(美杉村) 48. 熊野参詣道一伊勢路(海山町・尾鷲市)	(追)48. 熊野参詣道一伊勢路(多気町・大紀町・紀北町・尾鷲市・熊野市・御浜町・紀宝町)
25	滋賀県	46. 東海道一鈴鹿峠越(土山町)	
26	京都府	49. 宮津街道一普甲峠越(宮津市・大江町) 50. 山陰道一細野峠越(三和町)	97. 保津川水運(京都市・亀岡市) 98. 山陰道一唐櫃越・老ノ坂(京都市・亀岡市) (追)49. 宮津街道一今普甲道・元普甲道(福知山市)
27	大阪府	51. 竹内街道(太子町)	
28	兵庫県	52. 山陰道一蒲生峠越(温泉町)	
29	奈良県	47. 伊勢本街道一飼坂峠越(御杖村・曾爾村・榛原町・桜井市) 53. 柳生街道(奈良市)	(追)47. 伊勢本街道一飼坂峠越(宇陀市)
30	和歌山県	48. 熊野参詣道一紀伊路(広川町・日高町) —中辺路(那智勝浦町・熊野川町・田辺市) 54. 高野山参詣道一町石道(九度山町・かつらぎ町・高野町)	99. 葛城修験の道(橋本市・かつらぎ町・紀の川市・岩出市・和歌山市) 100. 古座街道(古座川町・すさみ町・白浜町・上富田町) (追)48. 熊野参詣道一紀伊路(海南市・有田市・湯浅町・御坊市・印南町・みなべ町) —中辺路(新宮市・那智勝浦町・田辺市・上富田町) —小栗街道(田辺市) —大辺路(那智勝浦町・串本町・すさみ町・白浜町) —小辺路(田辺市) —伊勢路(新宮市・田辺市) (追)54. 高野山参詣道一町石道(かつらぎ町) —黒河道(橋本市・九度山町・高野町) —京大坂道(高野町) —榎尾道(九度山町・高野町) —三谷坂(かつらぎ町) —西国街道(麻生津道)(かつらぎ町・紀の川市・高野町) —大峰道(高野町) —女人道(高野町) —小辺路(高野町) —相ノ浦道(高野町) —有田龍神道(かつらぎ町)

31	鳥取県	52. 山陰道一蒲生峠越(岩美町) 55. 大山道一川床道(大山町・中山町・東伯町・関金町) 一横手道(大山町) 56. 智頭往来一志戸坂峠越(智頭町)	(追)55. 大山道一川床道 一横手道 一坊領道(大山町)
32	島根県	57. 石見銀山街道一降路坂道(温泉津町・大田市) 一やなしお道(邑智町) 58. 広瀬・清水街道(広瀬町・安来市)	101. 山陰道一鎌手峠越・徳城峠越・野坂峠越(益田市・津和野町)
33	岡山県	55. 大山道一横手道(久世町・湯原町) 56. 智頭往来一志戸坂峠越(西粟倉村)	
34	広島県	59. 山陽道一大山峠越・玖波(東広島市・広島市・大野町・大竹市)	
35	山口県	60. 萩往還(萩市・旭村・山口市・防府市) 61. 赤間関街道一中道筋・雲雀峠越(美東町・秋吉町)	102. 岩国往来(岩国市)
36	徳島県	62. 讃岐街道一大坂峠越(板野町)	103. 四国遍路道 一阿波遍路道(勝浦町・阿南市・徳島市・小松島市・吉野川市・神山町・三好市・板野町・美波町・牟岐町・海陽町)
37	香川県	62. 讃岐街道一大坂峠越(引田町)	103. 四国遍路道 一讃岐遍路道(観音寺市・坂出市・高松市)
38	愛媛県	63. 土佐北街道一笹ヶ峰越(川之江市・新宮村) 64. 橋原街道一葎ヶ峠越(五十崎町・河辺村・野村町)	103. 四国遍路道 一伊予遍路道(愛南町・宇和島市・西予市・大洲市・内子町・久万高原町・松山市・今治市・西条市・四国中央市) 104. 八幡浜街道一夜昼峠越・笠置峠越・三机往還道(大洲市・西予市・八幡浜市・伊方町) (追)64. 橋原街道一葎ヶ峠越・九十九曲峠越(西予市)
39	高知県	63. 土佐北街道一笹ヶ峰越(大豊町) 64. 橋原街道一葎ヶ峠越(橋原町) 65. 野根山街道(奈半利町・北川村)	103. 四国遍路道 一土佐遍路道(土佐市・高知市・宿毛市・土佐清水市・大月町・東洋町) 105. 土佐 塩の道(香美市)
40	福岡県	66. 長崎街道一冷水峠越(筑穂町・筑紫野市) 67. 肥前・筑前街道一脊振坂越(那珂川町)	106. 堀川(北九州市・中間市・水巻町) 107. 秋月街道(嘉麻市・朝倉市) 108. 筑後川水運(大川市)
41	佐賀県	67. 肥前・筑前街道一脊振坂越(東脊振村) 68. 太閤道一唐津街道(唐津市・鎮西町)	108. 筑後川水運(佐賀市) (追)69. 長崎街道一日見峠越・井樋尾峠越・多良通(多良海道)(太良町)
42	長崎県	69. 長崎街道一日見峠越・井樋尾峠越(長崎市・多良見町・諫早市・大村市)	(追)69. 長崎街道一日見峠越・井樋尾峠越・多良通(多良海道)(諫早市)
43	熊本県	70. 豊後街道一鶴崎路(阿蘇町・一の宮町・産山村) 71. 豊前街道一小倉路(山鹿市・三加和町・南関町) 72. 薩摩・肥後街道(水俣市) 73. 菊池川水運(玉名市)	109. 日向往還(山都町・御船町) 110. 緑川水運(山都町・美里町・甲佐町・熊本市・宇土市)
44	大分県	74. 日田・中津街道(日田市) 75. 日田・竹田街道(天瀬町)	111. 六郷満山の峯入りの道(宇佐市・豊後高田市・国東市) 112. 日向道一三国峠越(豊後大野市・佐伯市) (追)70. 豊後・肥後街道一鶴崎路(大分市)
45	宮崎県	76. 飫肥街道(日南市・北郷町)	113. 薩摩街道一東目筋(都城市・宮崎市)
46	鹿児島県	72. 薩摩・肥後街道(出水市) 77. 東目筋・大口筋(吉田町・始良町・加治木町)	
47	沖縄県	78. 国頭・中頭方西海道(那覇市・浦添市・恩納村)	114. 中城ハント道(中城村)

# 文化庁選定 歴史の道百選 位置図

凡例	
既選定	●
新選定	■
追加	▲



## 文化庁選定「歴史の道百選」追加選定一覧物件

79

名称：<sup>さまにさんどう</sup> 様似山道・<sup>さるるさんどう</sup> 猿留山道

選定箇所：冬島～幌満（北海道様似町）、庶野～目黒（えりも町）

概要：北方警備のため、断崖絶壁が続く海岸線の迂回路として、寛政11年（1799）に江戸幕府が蝦夷地で初めて開削した山道である。様似山道の途中には旅籠跡が、猿留山道の峠には石碑が残り、当時の往来の様子を窺うことができる。一部が史跡「様似山道」「猿留山道」に指定されている。



【写真提供：えりも町教育委員会】

80

名称：<sup>くじ</sup> 久慈・<sup>の だかいどう</sup> 野田街道

選定箇所：野田（岩手県野田村）、平庭峠（久慈市）、黒森峠（葛巻町）

概要：野田海岸で生産された塩を牛の背に乗せ遠く内陸へ運んだことから通称「塩の道」または「塩ベコの道」と呼ばれている。塩は内陸の盛岡や鹿角地方へ運ばれ、米などと交換された。街道沿いには「合戦場の一里塚（久慈市指定史跡）」や「奥清水のベコ泊り場」、牛方に関する風習として「牛の角突き（久慈市指定無形民俗文化財）」など塩の道に関する文化財が数多く残されている。



【写真提供：野田村教育委員会】

## 8 1

名称：<sup>はまかいどう</sup>浜街道

選定箇所：真木沢（真木沢一里塚）～田野畑（キリプセ一里塚）（岩手県田野畑村）、鯨道（大槌町）、鳥谷坂、女坂、石塚峠（釜石市）、鍬台峠（釜石市～大船渡市）、白木沢一里塚周辺、釣魚峠（大船渡市）、通岡峠（大船渡市～陸前高田市）、松ノ坂峠（陸前高田市）

概要：宮城県気仙沼市から三陸沿岸の各地を縦断し青森県八戸市に至る街道で、仙台領から釜石市石塚峠以北の盛岡領を経て、久慈市以北の八戸領を結ぶ古道である。近世では「海辺道」「浜南部道」などとも呼ばれていた。三陸海岸の地形は、主に宮古以南が鋸の歯のように入り組んだリアス式海岸で、以北は主に海岸段丘が発達し断崖絶壁が多い。そのため街道は南では峠越え、北では坂越え、谷越えと多様な様相を見せる。



【写真提供：大船渡市教育委員会】

## 8 2

名称：<sup>せんぼくかいどう</sup>仙北街道

選定箇所：下嵐江（岩手県奥州市）～手倉御番所跡（秋田県東成瀬村）

概要：岩手県南側と秋田県とを結ぶ重要な道で、江戸時代初めに幕府へ提出された正保国絵図では、同区間の道としては仙北街道のみが記されている。手倉には番所が置かれ、<sup>よこて</sup>横手城から藩士が出向いていた。岩手県側では「仙北道」「手倉越」、秋田県側では「仙台道」「水沢道」などとも呼ばれていた。



【写真提供：佐々木孝男氏】

## 83

名称：<sup>む つかみかいどう</sup>陸奥上街道

選定箇所：真柴～萩荘（岩手県一関市）

概要：奥州街道一関から岩出山（現宮城県大崎市）を結ぶ街道であり、一関市では<sup>はさま</sup>迫街道と呼ばれている。松尾

芭蕉に随行した<sup>かわいそら</sup>河合曾良の『奥の細道曾良随行日記』には、元禄2年（1689）5月14日に一関を出発し、岩ヶ崎を経て岩出山に宿泊したことが書かれており、その際に通ったのが陸奥上街道と考えられている。街道沿いには、「迫街道一里塚」（一関市指定史跡）が残り、当時の様子をうかがうことができる。未舗装分の一部は地元の保存会により環境整備が行われている。



【写真提供：一関市教育委員会】

### （追）2

名称：<sup>おうしゅうかいどう</sup>奥州街道一<sup>みのがさか</sup>蓑ヶ坂・<sup>ながさか</sup>長坂・<sup>たかやまごえ</sup>高山越・<sup>なみうちとうげ</sup>浪打峠・<sup>よのざかごえ</sup>ヨノ坂越

選定箇所：浪打峠～一戸～白子坂～ヨノ坂～摺糠（岩手県一戸町）～御堂・馬羽松一里塚（一戸町・岩手町）～御堂観音（岩手町）

概要：江戸日本橋を起点に津軽半島の外ヶ浜（青森県外ヶ浜町）へ至る日本最長の街道で、江戸時代の幹線道路の五街道の一つである。白河以北は各藩の管理下におかれたため、統一的な名称はない。今回追加する区間は、現国道が奥州街道と別ルートに設置されたことにより、街道と一里塚が保存されている一戸町～岩手町までの区間で、一部が史跡「奥州街道」に指定されている。



【写真提供：一戸町教育委員会】

#### (追) 4

名称：<sup>かつの</sup>鹿角・<sup>なんぶかいどう</sup>南部街道—<sup>なしの きとうげごえ</sup>梨ノ木峠越・<sup>くるまのぼしりとうげごえ</sup>車之走り峠越

選定箇所：荒屋新町、車之走り峠（岩手県八幡平市）

概要：奥州街道の脇街道の一つで、盛岡城下から荒屋・田山（八幡平市）を経て鹿角（秋田県鹿角市）に至り、秋田県大館市に至る。鹿角郡において17世紀初頭以降、金山開発が興ったことを契機として整備され、その後も尾去沢銅山と城下を結ぶ銅の道として、盛岡藩の財政を支えた重要な街道であった。今回追加する区間は、既選定の梨ノ木峠以東の荒屋新町及び七時雨山の車之走り峠を越える箇所、車之走り峠は鹿角街道の難所の一つであった。



【写真提供：八幡平市】

#### (追) 6

名称：<sup>ほっこくかいどう</sup>北国街道—<sup>みさきやまごえ</sup>三崎山越

選定箇所：旧大師堂（三崎神社）～駒泣かせ（山形県遊佐町）

概要：秋田県と山形県をつなぐ重要な街道で「秋田街道」「酒田街道」とも呼ばれた。観音、大師、不動の三つの峠からその名がある三崎山は北国街道の難所であった。三崎山全山タブ林で蔽われ、昼なお暗いタブの巨木の景観は、往時を彷彿とさせる。今回は、『おくのほそ道』でも芭蕉と曾良が通り、曾良の随行日記に「是ヨリ難所、馬足不通」と記された三崎山越の山形県側を選定する。



【写真提供：遊佐町教育委員会】

## 84

名称：あいづ よねざわかいどう ひばらとうげごえ 会津・米沢街道—桧原峠越

選定箇所：桧原峠～大塩～関屋（福島県北塩原村）

概要：会津藩内本街道五筋の一つで、会津若松から米沢までの約56kmを結ぶ。戦国時代にも蘆名氏領の会津から伊達氏領の米沢までの往来として利用されていた。大塩宿は江戸時代に塩泉を使用した「山塩」づくりが盛んであったことで有名である。桧原宿は、明治21年の磐梯山水蒸気爆発による桧原湖形成の際に水没し、災害とその後の復興を物語る道でもある。



【写真提供：北塩原村教育委員会】

## 85

名称：しらかわ あいづかいどう 白河・会津街道

選定箇所：大町一之町の札の辻（福島県会津若松市）～黒森峠（会津若松市・郡山市）～勢至堂峠（郡山市・須賀川市）～早坂峠（須賀川市・天栄村）～手招坂（天栄村）～上小屋宿～女石（白河市）

概要：会津若松城下の大町一之町から白河城下の奥州街道との分岐点「女石」にいたる約66kmの街道である。豊臣秀吉による奥羽仕置に際して、伊達政宗が白河から会津までの工事を担当し、道や宿駅が整備された。その後、17世紀前半に会津藩主加藤嘉明により行路が変更された。江戸と会津・越後方面を結ぶ交通路として、参勤交代や米などの物資輸送にも利用された。



【写真提供：会津若松市教育委員会】

## (追) 15

名称：佐渡路—会津街道・鳥井峠・車峠・東松峠・滝沢峠越

選定箇所：鳥井峠～車峠～東松峠（福島県西会津町）

概要：日本海側と内陸側との往来に欠かせない街道で、野沢宿のほか上野尻宿、下野尻宿、白坂宿、宝川宿等の宿場や軽沢等の間宿があり、賑わいを見せていた。今回、越後国境の鳥井峠から会津盆地近くの東松峠までの区間を追加する。



【写真提供：西会津町教育委員会】

## 86

名称：南郷道

選定箇所：盛金峠、館、和田（茨城県常陸大宮市）

概要：水戸を起点として、瓜連、大宮、大子を経て、南郷地域（福島県矢祭町・棚倉町周辺）に向かう脇往還である。その起源は南北朝期まで遡ることができ、軍事的な幹線道路として機能した。江戸時代に街道として整備され、久慈川の舟運の発達とともに、物資の輸送にも大きな役割を果たした。



【写真提供：常陸大宮市教育委員会】

## (追) 17

名称：<sup>しもつけかいどう</sup>下野街道（<sup>あいづなかがいどう</sup>会津中街道・<sup>あいづにしかいどう</sup>会津西街道）

選定箇所：大峠～三斗小屋宿～板室（栃木県那須塩原市）、上三依、五十里湖～高原新田宿～藤原（日光市）

概要：会津西街道は奥州道中今市宿から会津若松城下をつなぐ街道で、福島県側では下野街道とも呼ばれる。山地を通過しているため難所が多く、江戸時代末期には栃久保新道と呼ばれる迂回路が開削された。主要街道として現在も利用されていることから改修が進んでいるが、今回追加する会津西街道は、迂回路の開削により、古道が残された箇所である。



会津中街道は天和3年（1683）に日光地震で通行不能になった会津西街道の代替道として元禄8年（1695）に開通した街道で、会津西街道が復旧した後もそのまま使用され続けていた。

## 87

名称：<sup>とねうなが</sup>利根運河

選定箇所：深井新田～上利根（千葉県野田市・流山市・柏市）

概要：利根川と江戸川を結ぶ運河で、明治23年に開削された。開通後は昭和16年の大洪水によって打撃を受けるまでの約50年間に約100万隻の船が往来し、当時の物流に大きく貢献した。昭和16年以降は利根川・江戸川の水量を調節する役割を担い、現在は運河及び周辺の自然を活かした憩いの場として活用されている。



【写真提供：流山市教育委員会】

## 88

名称：<sup>にしい かりみち つるしみち</sup>西五十里道・鶴子道

選定箇所：鶴子～鶴子銀山跡～上相川（新潟県佐渡市）

概要：中近世における鶴子銀山の開発に伴い、真野湾の沢根五十里港から鉾山集落・銀山までの間に整備されたと考えられる主要な幹線道路で、後の相川金銀山の発見と鉾山集落の形成（上相川）により、鶴子銀山～上相川間が延長されたと想定される。比較的傾斜のゆるやかな相川道（相川～小木間の往還）が整備された後は、主要な幹線道路ではなくなったが、江戸時代後期には鶴子銀山の弥十郎間歩と相川を結ぶ道路として機能した。



【写真提供：佐渡市】

## 89

名称：<sup>あいづかいどう ろくじゅうりごえ</sup>会津街道一六十里越

選定箇所：穴沢、細野（三茶峠）、大倉沢、三湊沢、東中、下倉、田戸（新潟県魚沼市）

概要：魚沼地方と奥会津地方を結ぶ街道で、中世には軍用道路として利用された。

近世になると、暮らしの道として日用雑貨類や綿布などが運ばれたほか、「越後縮」の原料として奥会津で生産された青苧が六十里越を通過して小出・堀之内に卸された。堀之内で三国街道と別れ、破間川沿いに上流へ向かい、大白川新田から浅草岳の南側鞍部を越えて福島県南会津郡只見町に通じる県境の峠道をいう。



【写真提供：魚沼市教育委員会】

(追) 20

名称：佐渡路—<sup>さどじ</sup>三国街道<sup>みくにかいどう</sup>

選定箇所：栃原峠（新潟県魚沼市）

概要：日本海側と太平洋側を結ぶ主要な街道の一つで、幕府の佐渡金山の開発に伴って整備が進められた。堀之内は水陸交通の要衝に位置し、慶長年間（1596～1615）には三国街道の宿場となった。魚野川の水運が盛んになるに伴い商業化が進み、十日町や小千谷と並び縮市が開かれた。堀之内～浦佐



【写真提供：魚沼市教育委員会】

間を走る栃原峠は寛永年間（1624～1643）に開削され、魚野川を渡る必要がない最短の街道として整備された。今回は既選定箇所の北側を追加する。

90

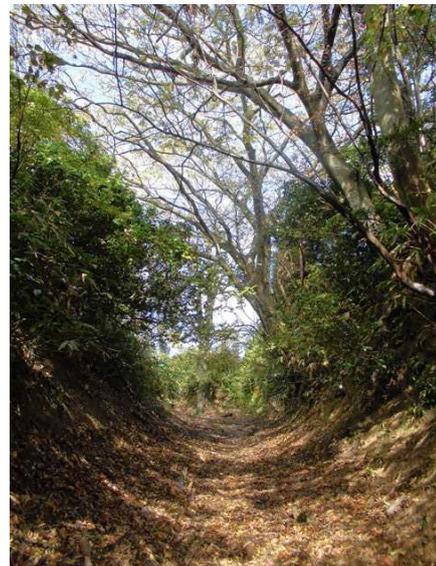
名称：田近越・<sup>たちかごえ</sup>小原越<sup>おはらごえ</sup>・<sup>ふたまたごえ</sup>二俣越<sup>ほうさかごえ</sup>（<sup>さんのさかごえ</sup>朴坂越・三ノ坂越）

選定箇所：田近越—八講田、八講田～五郎丸～八伏～一乗寺城跡（富山県小矢部

市）～字南横根～字常德、  
字常德（石川県津幡町）～  
琴町、北千石町（石川県金  
沢市）

小原越—五郎丸～内山（富山県小矢  
部市）～松根城跡～竹又  
町、竹又町～堀切町、桐山  
町～切山城跡（石川県金沢  
市）

二俣越—坂本～朴坂峠～小又（富山



小原越（富山県）

県南砺市)、荒山町～荒山城跡～二俣町、二俣町～不室町～高峠城跡～釣部町～牧町～伝燈寺町～夕日寺町～御所町～山王町（石川県金沢市）

概要：越中国と加賀国を結ぶ道で、中世に遡る道である。交通の要衝であり、道筋に山城が対峙するように築かれ、天正12～13年（1584～1585）の前田利家と佐々成政による加越国境の攻防の緊張を伝える。小原越では堀切が切断する戦時封鎖が確認されており、一部が史跡「加越国境城跡群及び道」に指定されている。



小原越（石川県）

## 9 1

名称：おうめかいどう青梅街道

選定箇所：大菩薩峠～勝縁荘、上日川峠～千石茶屋（山梨県甲州市）

概要：江戸時代初期、江戸城建築用に西多摩地方の石灰を運搬するために武蔵野を東西に貫いて開かれた街道。新宿追分を起点として甲州街道と分かれ、青梅市・大菩薩峠・甲州市を経て、甲府市酒折で再び甲州街道に合流する。甲州裏街道ともいった。



【写真提供：甲州市教育委員会】

## 92

名称：甲州街道—<sup>こうしゅうかいどう</sup> 笹子峠越<sup>ささごとうげごえ</sup>

選定箇所：笹子峠（山梨県大月市・甲州市）

概要：江戸時代の五街道の一つで、江戸日本橋を起点とし、内藤新宿を経て甲府に至り、さらに下諏訪で中山道に合流する。笹子峠は甲州街道の第一の難所とされた峠で、この峠を境として甲斐国の東部の郡内地方と中西部の国中地方とに区別される。この区間には、山梨県指定天然記念物「笹子峠の



矢立のスギ」や茶屋跡、明治天皇巡幸の折に休憩をした野立跡が残り、舗装整備された県道から外れて往時の状況が良好に残されている。

## 93

名称：みのぶ道<sup>みち</sup>

選定箇所：身延山周辺（山梨県身延町）、七面山周辺（山梨県身延町・早川町）、真篠城周辺（山梨県南部町）、馬坂峠（静岡県富士市）、関屋峠（静岡県静岡市）

概要：駿河国から日蓮宗総本山身延山久遠寺を経て、甲府へ至る全長約80kmの道である。駿河からは岩淵（静岡県富士市）から富士川沿いに行く道と興津（静岡市清水区）から北上する道があり、山梨県南部町万沢で合流する。戦国時代は甲斐の武田氏をはじめ軍用路として利用され、近世には「身延詣」のため、多くの人々が往来する信仰の道と



みのぶ道（馬坂峠）（静岡県）



みのぶ道（山梨県）

もなった。近代においても、日蓮宗等の宗派は、身延山・七面山登拝行を必須の修行としており、往時の信仰活動を今日に伝えている。

## 94

名称：<sup>とがくしみち</sup>戸隠道

選定箇所：善光寺～湯福神社、善光寺～静松寺、荒安～一ノ鳥居～大久保の茶屋～戸隠神社火之御子社～戸隠神社中社～戸隠神社奥社、地藏堂～戸隠神社宝光社～戸隠神社中社、種池周辺、女人結界石周辺（長野市）

概要：戸隠神社（近世までは戸隠山頭光寺）につながる道の総称である。修験者が霊場・戸隠山へ向かう道として開かれ、やがて一般大衆の参詣が増えるにつれ、複数の道筋が整備されたと考えられる。代表的な道は善光寺から戸隠神社中社までの表参道で、大きく三筋がある。主な分岐点には道標が置かれ、一ノ鳥居からは丁石も設置されている。参詣道のみならず山間の流通路としても大きな役割を果たした。



【写真提供：長野市教育委員会】

## 95

名称：<sup>ほっこくわきおうかん</sup>北国脇往還 <sup>ぜんこうじみち</sup>（善光寺道）

選定箇所：善光寺宿、丹波島宿（長野県長野市）、稲荷山、<sup>さるがばんば</sup>猿ヶ馬場峠（千曲市・麻績村）、麻績（麻績村）、青柳宿（麻績村・筑北村）、立峠（筑北村・松本市）、会田宿、刈谷原峠（松本市）、郷原宿（塩尻市）

概要：中山道と北国街道を結ぶ輸送路で、善光寺への参詣道としても利用された。戦国時代には刈谷原、会田、青柳、麻績等で宿場が作られた。慶長19年（1614）、松本城主の小笠原秀政によって中山道と麻績との間で宿駅制度が整

備され、猿ヶ馬場峠を越えて桑原（千曲市）や稲荷山と結ばれたことで、北国脇往還が成立した。洗馬（塩尻市）から善光寺へは約80kmの道のりで12（間の宿を含めると17）の宿場が設けられている。本陣や石仏等、往時の状況が良好に残されている。



【写真提供：千曲市教育委員会】

### （追）31

名称：松本・千国街道及び東回り古道

選定箇所：松本・千国街道一角間池下～大網峠～横川吊り橋～大網宿、大網にか

い、葛葉峠、猫鼻～湯原～天神道～塩坂～島、沢入、石坂～池原～下里瀬、下里瀬～虫尾、虫尾～和平～雨中、三夜坂、千国宿横水、親坂～沓掛（長野県小谷村）、落倉～切久保 おかるの穴、切久保～新田（観音原付近）、佐野坂（白馬村）、佐野坂～エビスマ原、青木～中網、西海ノ口（大町市）、養老坂（松本市）

東回り古道一戸土～角間池～栗峠～横川、鳥越峠越え、長者平～大峠～地蔵峠入口、深原～埋橋～中谷、長崎～大峯～土谷（小谷村）

概要：越後の糸魚川と信濃の松本を結ぶ街道で、日本海側からは海産物が、信濃側からは農作物が運ばれた。特に「塩の道」として古くから利用され、戦国時代には「敵に塩を送る」の故事を生んだ重要な道であった。東回り古道は古代の官道の峠を意味する「三坂峠」などがあり、畿内から北陸道を經由し信州へ入ってくる重要



東回り古道 高町越

【写真提供：小谷村教育委員会】

な道で、近世以降は主街道の迂回路として大きな役割を果たした。

#### (追) 40

名称：<sup>なかせんどう</sup>中山道—<sup>しなのじ</sup>信濃路

選定箇所：笠取峠下、長久保宿、四泊一里塚跡、落合橋周辺（長野県長和町）

概要：江戸時代の五街道の一つ。江戸日本橋から板橋、大宮、高崎を経て、軽井沢、下諏訪、馬籠、加納、守山などを通して草津で東海道に合流する。笠取峠の直下には旧道が残り、本陣、問屋、旅籠等の建物が点在する長久保宿も舗装道路ながら当時の道筋を保っている。



【写真提供：長和町教育委員会】

#### (追) 42

名称：<sup>なかせんどう</sup>中山道—<sup>ひがしみのじ</sup>東美濃路

選定箇所：馬籠峠～新茶屋（岐阜県中津川市）

概要：馬籠峠から新茶屋にかけての区間を追加する。同区間は標高差約310mで、その間に馬籠宿が存在する。馬籠宿は傾斜地に設置され、宿場内の民家は石垣を築いて屋敷地を確保していた。馬籠宿から西に向かい、新茶屋の手前に差し掛かると、正面に中津川市街が一望でき、貝原益軒の『岐蘇路記』にも記されている江戸時代の情景と変わらない景観が残されている。



【写真提供：中津川市】

## (追) 28

名称：<sup>とうかいどう</sup>東海道<sup>はこねきゆうかいどう</sup>一箱根旧街道<sup>ゆさかみち</sup>・湯坂道<sup>にしざか</sup>・西坂<sup>うつのやとうげごえ</sup>・宇津ノ谷峠越

選定箇所：宇津ノ谷（静岡県静岡市）～坂下（藤枝市）

概要：宇津ノ谷峠を越え静岡市宇津谷へ通じる古道は、江戸時代の東海道として多くの旅人が通行した幹線道路である。絵図や紀行文、歌舞伎など文学・美術の題材となり、歌枕の地として全国に知られる街道の名所であった。歌物語『伊勢物語』や紀行文『東関紀行』には、蔦の生い茂る寂しい山道「蔦の細道（呼称の定着は江戸時代以降）」として記されているが、豊臣秀吉が小田原攻めの際に拡幅整備したとされている。宇津ノ谷峠越の一部は史跡「東海道宇津ノ谷峠越」に指定されている。



## 96

名称：<sup>しんしゅういいたかいどう</sup>信州飯田街道

選定箇所：雨沢峠～坂瀬坂、上品野町、品野町（愛知県瀬戸市）

概要：近世中山道・下街道の脇往還として東濃地区と瀬戸・名古屋を結び、信州や東濃から陶磁器・煙草・木地椀・紙など、名古屋や海浜部からは塩・茶・魚・醤油などが運ばれた。この街道沿いでも、上品野や下品野では馬継地となり、いわゆる中馬が盛んに行われ、明治期以降「中馬街道」とも呼ばれていた。馬子唄に唄われた急坂難所の坂瀬坂から国境の雨沢峠に至る道は往時の状況を良好に残す部分もみられる。



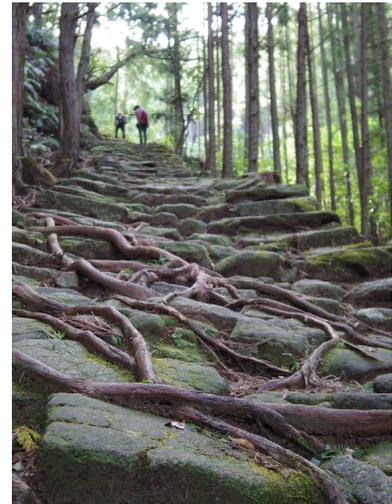
【写真提供：瀬戸市文化課】

(追) 48

名称：熊野参詣道—伊勢路

選定箇所：女鬼峠—成川～相鹿瀬（三重県多気町）、三瀬坂峠道—三瀬川～滝原（大紀町）、ツヅラト峠道—大内山志子谷～島原（大紀町・紀北町）、荷坂峠道—東長島、三浦峠道（熊ヶ谷道）—道瀬～三浦、始神峠道—三浦～馬瀬（紀北町）、三木峠道・羽後峠道—木里町～賀田町（尾鷲市）、曾根次郎坂・太郎坂—曾根町～二木島町（尾鷲市・熊野市）、二木島峠道・逢神坂峠道—二木島町～新鹿町（熊野市）、波田須の道—波田須町、大吹峠道—西波田須町～大泊町、観音道—大泊町、松本峠道—大泊町～木本町（熊野市）、横垣峠道—神木～阪本（御浜町）、風伝峠道—栗須～矢の川（御浜町・熊野市）、本宮道—矢の川、小川口～小栗須、小栗須～湯の口、湯の口～大河内、楊枝川（熊野市）、七里御浜—井戸町～紀宝町鶴殿（熊野市）

概要：熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社は「熊野三山」と呼ばれ、中世から多くの参詣者が詣でた。紀伊半島西岸を通る紀伊路、東岸を通る伊勢路、高野山と熊野三山を結ぶ小辺路に大別される。伊勢路は、特に江戸時代以降、伊勢参宮を終えた旅人や、西国三十三カ所めぐりの巡礼たちが利用した道である。それぞれ一部が史跡「熊野参詣道」に指定され、中辺路、大辺路、小辺路、伊勢路は、世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産である。



## 97

名称：<sup>ほづがわすい</sup>保津川水運

選定箇所：嵯峨～山本～保津～宇津根（京都府京都市・亀岡市）

概要：古代から丹波国と京都を結ぶ重要な材木輸送路である。江戸時代に角倉了以の開削によって舟運による物資輸送が可能となった。近代には嵐山までの遊船へと転換し、流通・往来の舞台として今日まで利用されている。



【写真提供：京都市】

## 98

名称：<sup>さんいんどう からとごえ おいのさか</sup>山陰道一唐櫃越・老ノ坂

選定箇所：下園尾町（京都府京都市）～篠町山本（亀岡市）、老ノ坂～篠町王子（亀岡市）

概要：唐櫃越は中世から丹波国と京都を結ぶ幹線道路であり、『太平記』にも登場する。如意寺、葉室山浄住寺など、古刹が数多くあり、往時の状況を良好にとどめている。老ノ坂はかつて足利尊氏や明智光秀も通った道とされ、貝原益軒の『西北紀行』でも景勝地として記される。首塚大明神や山陰道の道標が今も残る。



老ノ坂

【写真提供：亀岡市】

(追) 49

名称：宮津街道—今普甲道・元普甲道

選定箇所：毛原峠（京都府福知山市）

概要：大江と宮津を結ぶ大江山越の主要ルートであり、江戸時代初期に宮津街道（今普甲道）が整備されると旧道は元普甲道と呼ばれるようになった。今回、元普甲道のうち毛原峠を追加する。



【写真提供：福知山市】

(追) 47

名称：伊勢本街道—飼坂峠越

選定箇所：室生黒岩～室生田口元上田口、中垣内～榛原高井（奈良県宇陀市）

概要：大和国と伊勢国を最短距離で結ぶ街道である。急峻な山道が続くため、参勤交代には使用されなかったが、近世に庶民の間で流行した伊勢参詣に利用された。今回は、既選定に接続する箇所を追加する。



【写真提供：宇陀市教育委員会】

## 99

名称：葛城修験の道<sup>かつらぎしゅげん みち</sup>

選定箇所：行者杉（和歌山県橋本市）～蔵王峠（かつらぎ町）～葛城山頂～神通  
～粉河寺・松峠～土仏峠（紀の川市）～根来寺・押川付近、槌ノ子峠（岩出市）  
～懺法ヶ嶽～孝子峠～舟着場、友ヶ島（沖ノ島・虎島）（和歌山市）

概要：紀伊・和泉・河内・大和の4か国に跨る葛城山系は、役小角（役行者）の所縁から古代より修験の聖地として尊崇されていた。その役行者が法華経八卷二十八品を埋納したとされる経塚を「葛城二十八宿」とし、行場・拝所・宿所等を設け、また関係寺院を含めて修行の場としている。これらを繋ぐ道は、近世には聖護院、三宝院両門跡をはじめとして多くの修験者が入峯するようになり、今も修業の場として使用されている。



## 100

名称：古座街道<sup>こざかいどう</sup>

選定箇所：潤野、一雨～相瀬、長追（和歌山県古座川町）～佐本根倉、佐本中、

法師峠<sup>ほうしとうげ</sup>（すさみ町）、宇津木越<sup>うつぎごえ</sup>（白浜町・上富田町）

概要：田辺と古座を最短で結ぶ街道で、林業・製炭業、行商人の往来、西国巡礼等に利用された。街道沿いには石仏が多く、一部石畳道も残る。明治時代には、熊野中道とも呼ばれた。



(追) 48

名称：熊野参詣道<sup>くまのさんけいみち</sup>

選定箇所：紀伊路—藤白坂、拝ノ峠（和歌山県海南市）、蕪坂（有田市）、糸我峠（有田市・湯浅町）、藤田町吉田（御坊市）、榎木峠（印南町）、千里の浜（みなべ町）

中辺路—南谷、鴻田、高野坂（新宮市）、殿和田（新宮市・那智勝浦町）、小獅子峠、大獅子峠、青岸渡寺～阿弥陀寺～妙法山、滝道（那智勝浦町）、大日越、耳打～渡瀬、赤木越、北郡越、長尾坂（田辺市）、岩田（上富田町）、岡坂越（上富田町・田辺市）

小栗街道—本宮～湯峯、桧葉～四辻峠～武住峠、大瀬～四辻峠、和田峠、定峠、水呑峠～草木尾坂（田辺市）

大辺路—駿田峠、二河峠、市屋峠、浦神峠（那智勝浦町）、清水峠（那智勝浦町・串本町）、袋平見、山越古道、高場平見、飛渡谷、地藏平見、富山平見、中平見、赤瀬平見、安指平見、新田平見、雨島平見、伝次平見（串本町）、六坊浜、大平見、中の平見、上平見、スリの浜、長井坂、タオの峠、馬転坂（すさみ町）、安宅坂（すさみ町・白浜町）、仏坂、富田坂（白浜町）

小辺路—八木尾（田辺市）

伊勢路—志古（新宮市）～万歳峠（田辺市・新宮市）、大津荷（田辺市）～万歳峠（田辺市・新宮市）

概要：熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社は「熊野三山」と呼ばれ、中世から多くの参詣者が詣でた。紀伊半島西岸を通る紀伊路、東岸を通る伊勢路、高野山と熊野三山を結ぶ小辺路に大別される。紀伊路は紀伊半島を横断する中辺路と海岸沿いの大辺路に分岐する。それぞれ一部が史跡「熊野参詣道」に指定され、中辺路、大辺路、小辺路、伊勢路は、世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産である。



(追) 54

名称：こうやさんさんけいみち高野山参詣道

選定箇所：町石道—八町坂（和歌山県かつらぎ町）

黒河道—賢堂、清水（橋本市）、青淵、わらん谷（九度山町・橋本市）、  
太閤坂、戦場山、北又（九度山町）～子継峠（高野町）、北又～黒  
河峠（九度山町）～金剛峯寺奥院（高野町）

京大坂道—西郷、不動坂（高野町）

槇尾道—椎出（九度山町）～細川（高野町）

三谷坂—頬切地藏～笠松峠、笠松峠～上天野、笠松峠～六本杉、六本  
杉～上天野（かつらぎ町）

西国街道（麻生津道）—日高峠（かつらぎ町・紀の川市）、志賀（かつ  
らぎ町）、梨子ノ木峠（かつらぎ町）、聖峠（かつらぎ町・高野町）

大峰道—桜峠（高野町）

女人道—摩尼山周辺～揚柳山～子継峠～転軸山周辺、黒河口～不動口  
～大門口、龍神口～相ノ浦口～大滝口、大峰口～円通寺（高野町）

小辺路—水ヶ峰、大滝～薄峠（高野町）

相ノ浦道—相ノ浦～笠松峠～相ノ浦口（高野町）

有田龍神道—旧辻の茶屋跡～新辻の茶屋跡（高野町・かつらぎ町）

概要：弘仁7年（816）に弘法  
大師（空海）が真言密教の根本  
道場として高野山を開いて以  
降、参詣者の出発地点に応じて  
「高野七口」と呼ばれる複数の  
参詣道が形成された。町石道、  
三谷坂、京大坂道不動坂、黒河  
道、女人道は一部が史跡「高野  
参詣道」に指定され、世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産で  
ある。



(追) 55

名称：<sup>だいせんみち</sup>大山道—<sup>ぼうりょうみち</sup>坊領道

選定箇所：大野池入口～種原入口（鳥取県大山町）

概要：奈良時代に大山寺が創建され、本尊として地蔵菩薩が祀られると、地蔵信仰が中国地方を中心に広く伝わり、広大な信仰圏が形成された。坊領道は、大山（大山寺）への参詣道である大山道の主要五道（横手道、川床道、坊領道、尾高道、溝口道）の一つで、大山寺領であった坊領村を經由して大山に向かう道の総称である。今回、地蔵信仰の盛行を示す「地蔵道」という道標及び一町地蔵が残されている箇所を追加する。



【写真提供：大山町観光課文化財室】

101

名称：<sup>さんいんどう</sup>山陰道—<sup>かまてとうげごえ</sup>鎌手峠越・<sup>とくじょうとうげごえ</sup>徳城峠越・<sup>のさかとうげごえ</sup>野坂峠越

選定箇所：<sup>かまてとうげごえ</sup>鎌手峠越（<sup>かさのたに</sup>上ノ谷～<sup>きべごう</sup>木部郷）、<sup>ろくさいどうむかいちじぞうどう</sup>六斎道向市地蔵堂～<sup>つだやどみほんけ</sup>津田矢富本家、<sup>しかだ</sup>鹿田

<sup>とうげごえ</sup>峠越（<sup>かたこ</sup>片子～<sup>しもとおだ</sup>下遠田）、<sup>とうぼうじうら</sup>東方寺裏（<sup>かみとおだ</sup>上遠田）、<sup>たおやまごえ</sup>峠山越（<sup>ふたば</sup>双葉～<sup>いちめん</sup>一面）、

<sup>おうぎはらかんもんあと</sup>扇原関門跡（<sup>ただ</sup>多田～<sup>ひだりがやま</sup>左ヶ山）（島根県益田市）

徳城峠越—下小瀬～柳（津和野町）

野坂峠越—門林～野坂峠（津和野町）

概要：近世の山陰道は、京から丹波を経て山陰地方を通り、周防国の小郡（現・山口市）で西国街道に合流する街道である。那賀郡に接する土田から美濃郡の中心部益田までの間では、鎌手峠越、鹿田峠越、峠山越などの区間の遺存状態が良い。また、浜田藩と津和野藩が接した扇原関門跡には、土道の両側に



【写真提供：津和野町教育委員会】

両藩の境界石が残る。

徳城峠は『津和野百景図』に描かれるなど眺望景観に優れた峠である。頂上付近の茶屋からは、北側に日本海や高島、南側に青野山などが見える。

野坂峠は津和野城下町と長門国境の間を極めて近距離で繋ぐ特殊な位置にある峠道である。幕末の第二次長州征討の際には、この峠道を挟んで津和野藩と長州藩が交渉を行ったことで戦火が避けられた。徳城峠、野坂峠は大部分が史跡「山陰道」に指定されている。

## 102

名称：<sup>いわくにおうらい</sup>岩国往来

選定箇所：本郷～湯の迫、郷、下畑～生見、土佐坂～坂本、松尾峠（山口県岩国市）

概要：周防国東部の主要路であり、萩藩領の山代地域と岩国領の岩国城下町、今津とを結び、特産の紙をはじめ、物資を輸送する道としてもさかんに利用された。また、寛保2年（1742）の萩藩主毛利宗広の国廻りでも利用されており、絵図にも詳細に描かれた道でもある。



岩国往来（松尾峠）

【写真提供：岩国市教育委員会】

## 103

名称：<sup>しこくへんろみち</sup>四国遍路道—<sup>あわへんろみち</sup>阿波遍路道

—<sup>とさへんろみち</sup>土佐遍路道

—<sup>いよへんろみち</sup>伊予遍路道

—<sup>さぬきへんろみち</sup>讃岐遍路道

選定箇所：

阿波遍路道—那東、黒谷（徳島県板野町）、藤井寺（吉野川市）～焼山寺～宮分（神山町）、地藏越、あづり越（徳島市）、恩山寺門前～白砂（小松島市）、

生名～鶴林寺（勝浦町）～太龍寺～岡花（阿南市）、西加茂～太龍寺（阿南市）、貝谷峠（阿南市～美波町）、小田坂峠、丹前峠（美波町）、八坂八浜（牟岐町・海陽町）、馬路峠、宍喰峠（海陽町）、佐野、白地（三好市）

土佐遍路道—宍喰峠～甲浦～白浜（高知県東洋町）、吸江<sup>ぎゅうこう</sup>～坂本（高知市）、

塚地峠（土佐市）、市野瀬～真念庵、以布利<sup>いぶり</sup>～窪津（土佐清水市）、大浦～月山神社（大月町）、深浦～松尾峠（宿毛市）

伊予遍路道—松尾坂（愛媛県愛南町）、岩渕、野井坂（宇和島市）、柏坂（愛南町・宇和島市）、松尾峠（宇和島市）、篠山周辺（愛南町・宇和島市）、龍光寺周辺（宇和島市）、齒長峠（宇和島市・西予市）、明石寺付近（西予市）、鳥坂峠（西予市・大洲市）、子持坂（大洲市）、真弓峠・下坂場峠（内子町・久万高原町）、農祖峠、鶉田峠、峠御堂、岩屋寺周辺、千本峠（久万高原町）、三坂峠（久万高原町・松山市）、仙遊寺付近（今治市）、横峰寺周辺（西条市）、三角寺・三角寺奥之院周辺（四国中央市）

讃岐遍路道—逆瀬～谷口（香川県観音寺市）、白峯寺（坂出市）～根香寺（高松市）

概要：遍路道は、空海（弘法大師）ゆかりの寺社である四国八十八ヶ所霊場をめぐる霊場巡拝の道で、四国4県にまたがり、約1,400kmにも及ぶ。既に16世紀代には遍路という行為の存在を確認でき、江戸時代後期には、実際に遍路を経験した人々の「道中日記」や「納経帳」等から当時の札所の様子や遍路の動向が知られる。

徳島県域分の阿波遍路道では、黒谷寺道、焼山寺道、一宮道、恩山寺道、立江寺道、鶴林寺道、太龍寺道、いわや道・



阿波遍路道（鶴林寺道）

【写真提供：徳島県】



土佐遍路道（禅師峰寺道）

【写真提供：高知県教育委員会】

平等寺道、かも道、薬王寺道、東寺道、雲辺寺道、大興寺道のうち、往時の状況が良好に残されている箇所を選定する。選定箇所の一部は史跡「阿波遍路道」に指定されている。

高知県域分の土佐遍路道では、

ほつみさきじ 最御崎寺道、竹林寺道・ぜんじぶじ 禅師峰寺

道、しょうりゅうじ 青龍寺道、金剛福寺道、延光寺道、観自在寺道のうち、往時の状況が良好に残されている箇所を選定する。選定箇所の一部は史跡「土佐遍路道」に指定されている。

愛媛県域分の伊予遍路道では、観自在寺道、龍光寺道中道、龍光寺道灘道、篠山道、仏木寺道、明石寺道、大寶寺

道、岩屋寺道、浄瑠璃寺道、仙遊寺道、国分寺道、横峰寺道、香園寺道、三角寺道、三角寺道奥之院道、雲辺寺道のうち、往時の状況が良好に残されている箇所を選定する。選定箇所の一部は史跡「伊予遍路道」に指定されている。

香川県域分の讃岐遍路道では、大興寺道、根香寺道のうち往時の状況が良好に残されている箇所を選定する。選定箇所の一部は史跡「讃岐遍路道」に指定されている。



伊予遍路道（岩屋寺道）

【写真提供：愛媛県教育委員会】



讃岐遍路道（大興寺道）

【写真提供：香川県教育委員会】

## 104

名称：<sup>やわはまかいどう</sup>八幡浜街道—<sup>よるひるとうげごえ</sup>夜昼峠越・<sup>かきぎとうげごえ</sup>笠置峠越・<sup>みつえおうかんみち</sup>三机往還道

選定箇所：夜昼峠（愛媛県大洲市・八幡浜市）、笠置峠（西予市・八幡浜市）、名坂峠、大峠（八幡浜市）、伊方峠、小振峠（伊方町）

概要：西予市宇和町卯之町より岩木、笠置峠を越えて八幡浜市釜倉、八幡浜港、三机港へ向かう街道。宇和島藩主が参勤交代のため、三机から乗下船する際の参勤交代道、また、遍路のため九州から海路を経て上陸した際の遍路道としても利用された。



【写真提供：愛媛県教育委員会】

## 追（64）

名称：<sup>ゆすはらかいどう</sup>檮原街道—<sup>にらがとうごえ</sup>葎ヶ峠越・<sup>くじゅうくまがりとうげごえ</sup>九十九曲峠越

選定箇所：九十九曲峠（愛媛県西予市）

概要：伊予と土佐を結ぶ道で、幕末には土佐を脱藩した志士がたどった道である。坂本龍馬の脱藩の道として葎ヶ峠～宿間が既に選定されているが、九十九曲峠越を通った可能性もある。なお、吉村寅太郎は九十九曲峠を通過して脱藩した。



【写真提供：愛媛県教育委員会】

## 105

名称：土佐<sup>とさ</sup>塩<sup>しお</sup>の道<sup>みち</sup>

選定箇所：塩～塩峯公土方神社～源太坂～文代峠（高知県香美市）

概要：塩の産地である香南市赤岡町と香美市物部町を結ぶ約30kmの往還道である。土佐湾沿いはかつて一大製塩地として栄え、この塩を運ぶための道は、「塩の道」と呼ばれていた。『長宗我部地検帳』にも「塩ノ村」という村が記され、現在も「塩」という集落が存在している。往時の状況が良好に残されている。



【写真提供：高知県教育委員会】

## 106

名称：堀川<sup>ほりかわ</sup>

選定箇所：折尾（福岡県北九州市）～車返切貫（水巻町）～中間唐戸（中間市）～寿命唐戸（北九州市）

概要：宝暦12年（1762）に開通した人工運河である。灌漑用水路として周囲の田畑を潤しただけでなく、明治期には筑豊炭田から採掘した石炭の輸送路として繁栄した。最盛期の明治32年には13万艘の輸送船（川ひらた）が運航していた。現在も遠賀川から洞海湾まで往時の流路を残している。



【写真提供：水巻町教育委員会】

## 107

名称：<sup>あきづきかいどう</sup>秋月街道

選定箇所：千手宿（福岡県嘉麻市）～新八丁峠・旧八丁峠（嘉麻市・朝倉市）～秋月目鏡橋（朝倉市）

概要：中世から近世にかけての筑後国と豊前国をつなぐ街道である。長崎街道に先行する街道で、豊臣秀吉が九州平定の際に通った道として知られる。近世においては、参勤交代に利用された。宿場町の雰囲気や石畳が一部良好に残されている。



【写真提供：嘉麻市教育委員会】

## 108

名称：<sup>ちくごがわすいん</sup>筑後川水運

選定箇所：若津港（福岡県大川市）～筑後川河口（大川市・佐賀県佐賀市）

概要：筑後川は九州北部を東から西へ流れ有明海に注ぐ九州最大の河川である。筑前・筑後・肥前・豊後国の境界であり、水運が古くから発達し、農業用水としても利用された。有明海は干満差が大きいため、河口に潟土が堆積しやすく、船舶の輸送を妨げる事が多かった。



【写真提供：大川市】

明治政府が招いたオランダ人技師

ヨハニス・デ・レイケは、明治16～17年にかけて筑後川河口域を視察し、若津港一帯に導流堤を計画した。明治23年、導流堤は完成し、川の流れを速め、堆積する土砂を遠浅の河口に押し流すことで、航路を維持することに成功した。導流堤は現在もその役割を果たしており、引き潮の時だけその姿をみることができる。

## (追) 69

名称：長崎街道ながさきかいどう一日見峠ひみとうげごえ越・井樋尾峠いびのおとうげごえ越・多良通たらみち (多良海道たらかいどう)

選定箇所：矢筈峠～船倉（佐賀県太良町）～山茶花茶屋～長坂～七曲～大越、小川原浦（長崎県諫早市）

概要：江戸時代初頭に佐賀藩が整備した長崎街道の第一の幹線で、諫早永昌から多良岳東側を通る有明海周りで鹿島・塩田を通り佐賀に至る。他の藩の領地を経由せずに長崎警備や出島の情報を伝達することができ、また、諫早の光江津や多良の竹崎などで海路と接続し、有明海を渡って情報を伝えることもできた。



## 109

名称：日向往還ひゅうがおうかん

読み：ひゅうがおうかん

選定箇所：国界一帯～馬見原、山屋トンネル、聖橋～浜町、赤子谷石畳（熊本県山都町）、八勢～茶屋本、五里木跡～軍見坂、門前川目鑑橋～滝川（御船町）

概要：熊本県熊本市と宮崎県延岡市を結ぶ街道である。主に生活物資を運ぶための「民の道」として利用された。交流の拠点で宿場町として栄えた馬見原、同じく拠点として栄えた浜町には往時の景観が残り、石畳が随所に良好な状況で残されている。



【写真提供：山都町教育委員会】

## 110

名称：<sup>みどりかわすいん</sup>緑川水運

選定箇所：津留ヶ淵道～津留ヶ淵勘場跡（山都町）～岩下地区（美里町）～鵜ノ瀬堰～導流堤（甲佐町）～熊本藩川尻米蔵跡・船着場跡・大渡津（熊本市）～緑川河口（熊本市・宇土市）

概要：熊本県中央部を西へ流れる緑川は、物資の輸送に利用された水の道である。往時の水路だけではなく、山都町の津留ヶ淵には物資を運んだ石畳の道や勘定場跡も良好に残されている。河口に近い「熊本藩川尻米蔵跡」は史跡に指定されている。



津留ヶ淵道

【写真提供：山都町教育委員会】

## 111

名称：<sup>ろくごうまんざん</sup>六郷満山 <sup>みねい</sup>の峯 <sup>みち</sup>入りの道

選定箇所：宇佐神宮～御許山（宇佐市）、長安寺～天念寺～無動寺～椿堂、前田～中山仙境（豊後高田市）～大不動岩屋～岩戸寺、文殊仙寺付近（国東市）

概要：宇佐神宮を起点に険しい山道や岩場を歩いて、六郷満山の寺院や岩屋を巡り、所々で行法を行いながら、国東半島の峰々を踏破する修行の道である。峯入りの明確な記録は江戸時代になってからであるが、それ以前も行者による修行は行われていたと思われる。明治時代に峯入りは一度途絶えるが、戦後に再興され、一般の人々の信仰にも支えられて、現在も続けられている。



【写真提供：豊後高田市教育委員会】

## 112

名称：<sup>ひゅうがみち</sup>日向道—<sup>みくにとうげごえ</sup>三国峠越

選定箇所：市場～内山（豊後大野市）～

三国峠～<sup>こうづおの</sup>上津小野～<sup>おのいち</sup>小野市（佐伯市）

概要：豊後国と日向国を結ぶ交通路で、古代の官道に起源をもつと推定されている。中世、薩摩国の島津氏による豊後侵攻や、豊臣秀吉による九州平定にこの道が使用された。明治10年（1877）の西南戦争では官軍と薩摩軍が戦いを繰り広げた。沿道には今も多くの台場が残っており、戦



【写真提供：豊後大野市教育委員会】

いの激しさを物語る。また、本草学者の<sup>かくひか</sup>賀来飛霞や俳人の種田山頭火などの紀行文に紹介され、多くの旅人が行き交う道でもあった。三国峠は岡・佐伯・臼杵の三藩の境界に位置するためその名があり、眺望のよい景勝地である。

## （追）70

名称：<sup>ぶんご</sup>豊後・<sup>ひごかいどう</sup>肥後街道—<sup>つるさきじ</sup>鶴崎路

選定箇所：今市（大分市）

概要：熊本藩領の豊後国鶴崎と肥後国熊本を結ぶ街道である。今市は岡藩の宿場として中川氏によって整備され、熊本藩主が通る時は岡藩御茶屋でそばが振舞われた。660mに渡り敷き詰められた平石の石畳が現存しており、途中の折れ曲がった箇所には「火除藪床」が設けられた。



【写真提供：大分市教育委員会】

### 113

名称：<sup>さつまかいどう</sup>薩摩街道<sup>ひがしめすじ</sup>一東目筋

選定箇所：<sup>よれし</sup>和石（宮崎市）～国見峠～岩屋野（都  
城市）

概要：日向国と薩摩国を結ぶ街道で、薩摩藩主の参勤交代や巡視、物資の輸送、連絡道として利用された。国見峠は島津斉彬の巡視のために作成された『御道中記』にも記載されており、現在も往時の状況を良好に残している。



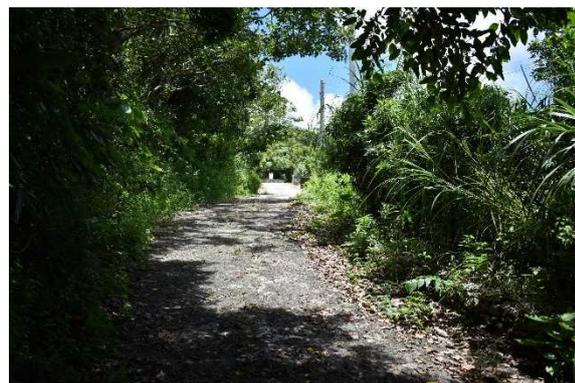
【写真提供：都城市教育委員会】

### 114

名称：<sup>なかぐすく</sup>中城<sup>みち</sup>ハンタ道

選定箇所：<sup>なかぐすくじょうあと</sup>中城 城跡<sup>いしやどう</sup>～伊舎堂<sup>きたうえぼる</sup>～新垣<sup>いとかま</sup>～北上原<sup>なかぐすくそん</sup>～奥間<sup>なかぐすくそん</sup>～糸蒲（中城村）

概要：中城村内は丘陵が南北に縦断しており、その縁辺部を通る道である。沖縄本島中部の東海岸を一望することができる。道沿いには集落跡が3箇所、グスクが2箇所存在し、集落やグスクを繋いで道が成立したことを知ることができる。石畳道や土道が良好に残存しており、一部が史跡に指定されている。



【写真提供：中城村教育委員会】

## 文化庁選定「歴史の道百選」追加選定委員会設置要項

平成30年12月18日  
次 長 決 定

### 1 趣旨

古くから人、物、情報の交流の舞台となってきた道や水路等（以下これらを総称して「道」という。）は、我が国の文化や歴史を理解する上で極めて重要な意味を持っている。しかしながら、これらの歴史的・文化的に重要な由緒を有する古道・交通関係遺跡（以下「歴史の道」という。）も、史跡等に指定されて保護されているものを除いては、開発事業などによって失われたり、荒廃しているものが多い。

「歴史の道」の保存と活用を広く国民に呼び掛け、「歴史の道」を顕彰するために、平成8年に全国各地の最もすぐれた「歴史の道」78か所を「歴史の道百選」として選定した。「歴史の道百選」の追加選定を行い、「歴史の道」及び地域の文化財に対する国民の関心と理解をより一層深めるため、文化庁選定「歴史の道百選」追加選定委員会（以下「追加選定委員会」という。）を設置する。

### 2 検討事項

- (1) 「歴史の道百選」の追加選定
- (2) その他「歴史の道」の保存と活用のあり方

### 3 組織及び運営

- (1) 追加選定委員会の委員は、文化庁次長が委嘱する。
- (2) 追加選定委員会に、座長を置き、委員の互選により定める。
- (3) 追加選定委員会には、必要に応じ、委員以外の有識者等の出席を求めることができる。
- (4) 議事の手続き、その他委員会の運営に関し必要な事項は、座長が追加選定委員会に諮って定める。

### 4 庶務

追加選定委員会の庶務は、文化庁文化財第二課が処理する。

文化庁選定「歴史の道百選」追加選定委員会委員

氏名	肩書	専門
小風 秀雅	立正大学文学部 教授	近代史
西山 徳明	北海道大学観光学高等研究センター教授	観光
○ 服部 英雄	くまもと文学・歴史館長	中世史
藤井 文子	元 山と溪谷社 旅行図書編集長	出版